

よきかな若人

～飯綱山こそわれらが希望～

☆全国学力・学習状況調査からみる本校3学年生徒の傾向と改善の方向について☆

本年4月に3学年を対象に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を受けて、本校の傾向と改善の方向についてお知らせします。

1 全体を通して

国語・数学・理科の3教科とも、全国・県の平均正答率を上回る結果となり、特に思考力・判断力・表現力の観点は、顕著に高い傾向がありました。無解答率も県・全国平均より低い傾向が見られ、問題に対して最後まで粘り強く向き合う意欲が伺えます。以下、教科の領域についての傾向を記します。

2 国語

(1) 話すこと・聞くこと

- ◇ 「自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話す」について、正答率が全国・県の平均と比べ、やや高い傾向にあります。コロナ禍で減少したといわれる「人に自分の考えを伝える」という機会ですが、今後の人生でも大いに必要となっていく力と考えます。本校のグランドデザインでも「表現力」は重点とされており、そこにフォーカスした授業実践を今後も心がけていきたいと思えます。

(2) 書くこと

- ◇ 「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」について、正答率が全国・県の平均と比べ、やや高い傾向にあります。

(3) 読むこと

- ◇ 場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することについて、正答率が全国・県の平均と比べて顕著に高い傾向にあります。日々の授業の中で、細かく描写を捉えたり、その場面をイメージしたりする学習活動を大切にしていることが理由としてあげられます。

(4) 言葉の特徴や使い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項

- ◆ 表現の技法についての正答率が、全国・県の平均と比べてやや低い傾向にあります。使われている「表現の技法」や「事象や行為、心情を表す語句」を正確に理解していけるよう知識の定着を図っていききたいと思います。
- ◇ 「漢字の行書の特徴やそれに調和した仮名の書き方」について理解できている生徒が多いことが伺えます。

3 数学

(1) 数と式

- ◇ 自然数を素数の積で表すことや連立二元一次方程式の解き方が理解できている生徒が多い傾向にあります。また、問題場面における考察の対象を明確に捉えることができていることが伺えます。

(2) 図形

- ◇ 「三角形の合同条件」についての正答率が、全国・県の平均を大きく上回っています。
- ◆ 「反例の意味」についての正答率が、全国・県の平均と比べてやや低い傾向にあります。数学的な用語についても正確に理解していけるよう知識の定着を図っていききたいと思います。

(3) 関数

- ◇ 関数領域の正答率は、どの問題においても全国・県の平均を大きく上回っています。
- ◇ 授業や家庭学習での学習の内容がきちんと定着していることが伺えます。

(4) データの活用

- ◇ 「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現で説明する」についての正答率が全国・県の平均と比べて顕著に高い傾向にあります。授業の中で、ICTを活用したデータの読み取り等の学習活動を大切にしていることが背景として伺えます。

4 理科

(1) 物理

- ◇ 「考察の妥当性を高めるための視点を明確にし、実験の計画を立てる」についての正答率が、全国・県の平均と比べて顕著に高い傾向にあります。授業での観察や実験等で、目的や見通しをもった活動が行えている生徒が多いことが伺えます。

(2) 化学

- ◇ 「条件制御を行った実験の計画や考察」について、正答率が全国・県の平均と比べて高い傾向にあります。日々の授業の中で行う対照実験を通じた計画や考察の経験が活きていると考えます。

(3) 生物

- ◇ 生物領域の正答率は、全国・県の平均をやや上回っています。
- ◆ 生物を分類する観点を正確に説明する問題の正答率で、全国・県の平均と比べてやや低い傾向があります。生物同士を比較し共通点や相違点を捉えながら分類の観点を正確に説明できるよう、授業の中で既習の内容と関連付けながら自分の言葉で説明する活動を大切にしていきたいと思えます。

(4) 地学

- ◇ 気象現象について観測データと結びつけた考察ができている生徒が多い傾向にあります。授業の中で、観察・実験を通して現象を捉えたり、ICTを活用して映像やデータの解析・読み取りを行ったりする学習活動を大切にしていることが背景として伺えます。

5 生徒質問紙からの傾向

- ◇ 基本的な生活習慣について、「毎日の就寝・起床時刻が守れている」は、全国・県の平均と同程度となっています。「毎日朝食を食べる」は、全国・県よりやや高い傾向にあります。
- ◇ 将来の夢や目標をもって学校生活を送っている生徒が多いです。9教科の授業だけでなく、総合的な学習の時間や部活動、進路学習等、多くの活動の中で自分を見つめながら前向きに学校生活を送っている様子が伺えます。
- ◇ 生徒同士で話し合い、互いの良さを認め合いながら諸活動に取り組んでいることが伺えます。グループでの追究から、自らの考えをさらに深めていこうとする姿が多く見られます。
- ◆ 一方で、個別に自分の考えを伝えるために工夫して発表する力に課題を感じている生徒もいます。今後も、様々な場面で経験を積み重ねていけるような機会を大切にしていきたいです。
- ◇ 授業におけるICT機器の活用頻度について、「週3回以上使用している」が、本校は85.9%と、全国の平均50.9%を大きく上回っています。飯綱町の支援によってICT環境が整っていることや先生方・生徒の積極的な活用が背景にあると考えられます。これを有効な手段として、学力の向上につなげていきたい。
- ◇ 家庭学習について、一日あたりの学習時間が全国・県の平均を上回っています。
- ◇ 「自分で計画を立てて勉強している」については、本校80.8%で、全国58.5%・県58.4%の平均と比べて顕著に高いことが伺えます。昨年度から始まった「主体的に学習に取り組む態度」の評価に沿った指導として本校で行っている「教育相談の時間（2週間に1回程度、家庭学習の計画を立てたり、実践を振り返ったりする時間）」での成果等が考えられます。引き続き、家庭学習へのフォローアップや授業と家庭学習の関連付けを行っていきたく考えています。